上田市立東小学校　学校だより

望と勇

令和７年６月５日
No.11
文責　田中　誠

運動会イノベーション

　運動会では、多くの皆様から大きな声援を送っていただきありがとうございました。天気が心配されましたが、蓋を開けてみれば最高のコンディションで、子どもたちは学習の成果を存分に発揮できたように思います。急なプログラム変更も前向きに捉え、気持ちのよい演技を見せくれました。特に６年生は、最終演技として準備をしてきたものの後半最初の演技となり、戸惑いもあったことと思います。それでも、はつらつとしたダンスときびきびした動きで、観ている人を魅了してくれました。観客を巻き込んでのハイタッチも、まるで自分が演技に参加しているような気持ちにさせてくれました。ある職員が「今年の運動会の雰囲気を作ったのは、後半最初の6年生の演技だったと思う」と話していましたが、まさにそうであったと感じています。６年生の演技から始まった運動会の後半、私はこれまで経験してきた運動会とちょっと違う印象をもちました。皆様はいかがでしょうか。

　子どもたちはもちろんですが、私たち大人にも、一人一人がイメージする運動会があります。短距離走、綱引き、玉入れ、民舞、組体操、赤白リレー、大玉送り、というところが思いつくでしょうか。応援合戦を交えて点を競い合ったり、一糸乱れぬ動きに観客が思わず息をのんだり。これまで大切にされてきた運動会のよさがあります。
　一方で、軽快な音楽と子どもたちの「発想」や「選択」が保証された演技によって、見ている人たちを巻き込んだ（まるでライブ会場のような）運動会の新しい形を東小の子どもたちが見せてくれました。多くの大人の皆さんがもっている運動会のイメージとは違うかもしれません。でも、今の子どもたちに合った（もしかすると大人になった私たちにも合った）素敵な運動会だったように思います。
　その裏には、種目や演技を企画した、本校職員の発想とエネルギーがありました。新しい発想で、子どもたちの育ちを見越した種目の選定に、脱帽です。
　長野県の教育方針は「学びの改革」です。前例にとらわれない新たな発想と情熱で子どもたちの学びの場を作り出そうとしています。今年度の運動会はまさにその姿だったように思いました。

　今週は、運動会の余韻を残しながら通常の日課での生活です。アナウンスやBGMの代わりに、大きな行事をやり遂げた子どもたちの元気な声が響いています。

UCV放送予定

落とし物

お心あたりのある方は教頭へお問い合わせください

白い宝石玉がついたキーホルダー　marumi　カメラレンズカバー（クリア）
ちいかわキーホルダー　CANON　カメラレンズカバー（ブラック）
HONDA　お弁当シート